



令和3年度 清水小学校便り

きよみず



学力特集号
令和3年12月14日
北九州市立清水小学

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

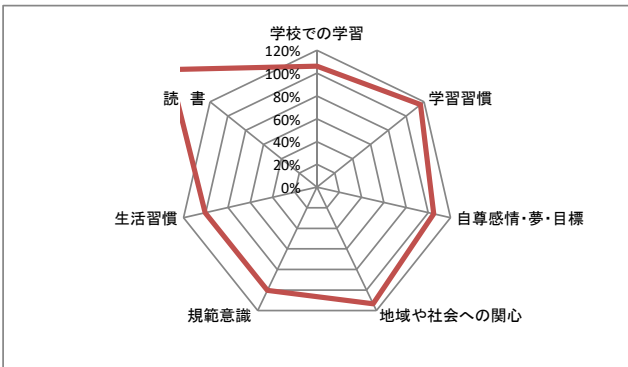
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	<ul style="list-style-type: none"> 国語科においては、14問中3つの問題を除いて全ての問題で全国平均と福岡県平均を上回っていた。特に文章全体の構成や展開を考えたり、自分の考えが伝わるように書き方を工夫したりするなどの「書くこと」の問題において、全国平均を大きく上回った。 漢字を文の中で正しく使ったり、主語と述語の関係を捉えたりする問題に課題が見られた 	上回っている
算数	<ul style="list-style-type: none"> 算数科においては、16問中1つの問題を除いて全ての問題で全国平均と福岡県平均を上回っていた。特に問題に対する求め方を書いたり、その答えになるわけを書いたりする記述式の問題の正答率が高かった。 棒グラフから数量や関係を読み取る問題に若干の課題が見られた。 	上回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

授業の中で、自分の考えを書いたり、それをもとに話し合ったりする場面を多く設定する。
また、ICT機器を効果的に活用した授業の工夫と実践を継続して行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習チャレンジハンドブックを活用し、自主的に家庭学習を行う児童の育成に努める。
- 携帯電話・スマートフォンやタブレットの使い方については、ネット非行防止教室等を活用し、継続して指導していくとともに、ポスター掲示等で啓発していく。